

マトリョーシカと漁師

根本香絵 (国立情報学研究所情報学プリンシパル研究系准教授)

「マトリョーシカ」という木製の人形をご存知だろうか？ 胴体をパカッと開けると、中には一回り小さな人形が入っている。それを開けると中からまた一回り小さな人形が顔を出す。こんな具合に次々と入れ子状に人形が入っているのがちよつと変わった、ロシアの土産品である。

「わからない」を楽しむ

このマトリョーシカ、そもそもは一九〇〇年のパリ万国博覧会への出品を機にヨーロッパで注目され、いわば逆輸入のかたちでロシア国内へ広まったものと聞く。私も出張中、たとえばロンドンのヒースロー空港や、アメリカ東海岸のボストンの商店街などロシア以外の国々で、マトリョーシカの姿を偶然目にするのが少なくない。珍しさや新しさでは、私の専門である「量子」もひけを取らないのだが、親しみやすさの点では全くくらやましい限りである。

量子という概念が生まれたのは、実はマトリョーシカと同じ一九〇〇年に遡る。自然界は連続量ではなく、ひとつつたつと数えられるよう

な離散的な値をとるという革命的な発見から、それは生まれた。「量子」という訳語の源である「quantum」は、今では専門用語というよりは一般名詞といえるほど、英語を話す人々の間に浸透



した言葉だ。ロンドンでタクシーの運転手と話しても、オーストラリアの売店で店員と話しても「ああ、すごく離れた別々の場所に同時に存在できるっていう、ヘンなやつでしょう？」という答えが返ってくる。「quantum」と言えばあれ、とい

う共通のイメージができてくるようなのである。「リョーシ」は身近になり得るか？

ところが日本語だと、「りょうし」は困ったことに「漁師」と音が通じ、人々の頭の中に海のイメージを呼び出してしまふ。また漢字表記の場合には「りょうこ」という人名にも読めるという具合で、なかなか一定の像を結びにくいようなのである。

折しも昨年は映画007シリーズの最新作が、その制作段階から世界じゅうで大きな話題になった。タイトルは「QUANTUM OF SOLACE」。これをきつかけに「リョーシ」理解が広がればと密かに期待したが、邦題が「慰めの報酬」と決まり、期待は的外れに終わってしまった。

一方マトリョーシカのほうは、東京では昨年あたりから人気上昇中である。私はこのマトリョーシカを使って「リョーシ」の普及を目指したウェブサイトを(www.ryosi.com)を運営しているが、嬉しいことに、近頃読者が増えつつある。機は熟しつつある。

情報から知を紡ぎだす。

NII

国立情報学研究所 ニュース(NII Today) 第43号 平成21年3月

発行: 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 <http://www.nii.ac.jp/>

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター

編集長: 東倉洋一 表紙画: 小森 誠 写真撮影: 由利修一 デザイン: 鈴木光太郎 制作: サイテック・コミュニケーションズ

本誌についてのお問合せ: 企画推進本部広報普及チーム TEL:03-4212-2135 FAX:03-4212-2150 e-mail: kouhou@nii.ac.jp